

第6回朝来市議会定例会一般質問通告書（代表質問） 令和8年6月12日

番号	1	質問者	藤原 正伸	タイトル	人口減少下の持続可能な地域経営
質問事項		質問要旨			答弁を 求める者
1	改訂総合計画の運用について	<p>第3次朝来市総合計画改訂版では、人口減少や少子高齢化の進行を踏まえながら、「人と人がつながり幸せが循環するまち」を将来像として掲げ、持続可能な地域づくりを目指しておられます。</p> <p>一方で、地域活動の担い手不足、福祉・介護人材の確保、公共交通の維持、行政運営を支える専門人材の不足など、人口減少社会における地域運営の課題は年々深刻化していると感じています。</p> <p>第3次総合計画改訂版が策定された今、あらためてお尋ねします。</p> <p>(1) 改訂された総合計画後半期において、市長は朝来市の持続可能性を確保する上で、どの課題を最も重要な政策課題として認識しておられますか。</p> <p>(2) 限られた人材と財源の中で、どのような考え方で施策の重点化と行政資源の配分を行っていかれますか。</p>			市長
2	地域運営の担い手戦略について	<p>昨年、「朝来市地域協働の指針」が改訂され、人口減少や高齢化が進む中であっても、地域住民が主体となった地域運営を継続していくための方向性が示されました。</p> <p>しかしながら現実には、多くの地域で役員や地域活動の担い手の固定化が進み、役員のなり手がいない、行事や地域活動の継続が困難といった課題が顕在化しています。</p> <p>(1) 「地域運営の担い手不足」を朝来市の地域づくりにおける最重要課題の一つとして認識しておられますか。また、現在の区や地域自治協議会を中心とした体制を将来にわたり維持できると考えておられますか。</p> <p>(2) 多様な主体の参画をどのように進め、地域協働の指針が目標とする地域運営体制を実現しようとされて</p>			市長

	いますか。	
3 公共交通と生活圏維持について	<p>公共交通の問題は単なる移動手段の問題ではなく、市民が住み慣れた地域で暮らし続けることができるかどうかを左右する重要な生活基盤の問題であると考えます。</p> <p>(1) 市長は現在の公共交通政策について、「交通サービスを維持する政策」として捉えておられるのか、それとも「医療・福祉・買物・地域活動を支える生活圏維持政策」として位置付けておられるのか、その基本認識を伺います。</p> <p>(2) 今後の公共交通政策を検討するにあたっては、「どこへ運ぶか」ではなく、「どのような暮らしを支えるか」という視点を重視して議論を進める必要があると考えますが、市長のご所見を伺います。</p>	市長
4 データに基づく行政運営について	<p>人口減少や少子高齢化が進む中、市が抱える課題は複雑化し、限られた財源と人員で最大の成果を上げるためには、客観的なデータや根拠に基づいて政策を立案し、その効果を検証しながら改善していくEBPM（証拠に基づく政策立案）の考え方がますます重要になっています。</p> <p>(1) 市長は、人口減少社会における本市の経営において、EBPM をどのように位置付けておられますか。現状評価と併せてお聞きいたします。</p> <p>(2) 統計分析機能や政策評価機能をどのように強化していくお考えか。また、庁内におけるデータ活用体制や統計専門部署の設置についてどのように考えておられるか。さらには、データサイエンスや政策分析の知見を持つ専門人材の確保・育成をどのように進めるか。市長のご見解を伺います。</p>	市長
5 市長の将来ビジョンについて	<p>人口減少社会における朝来市の未来像と、その実現に向けた市長の理念についてご所見を伺います。</p> <p>(1) 市長は、2040年頃の朝来市をどのような姿として描いておられますか。</p>	市長

	(2) 2040年の朝来市を実現するため、市長として今後の市政運営で最も大切にしたい考え方は何ですか。	
--	---	--

第6回朝来市議会定例会一般質問通告書（代表質問） 令和8年6月12日

番号	2	質問者	日下 茂	タイトル	交通の要衝のまちの衰退か？
質問事項		質問要旨			答弁を 求める者
1	中東情勢の朝来市内企業への影響	(1)	重油、ナフサ等の不安定供給が市内企業の稼働に悪影響を与えていないか。		市長
		(2)	日本は中東から原油の70%ナフサの40%を輸入している。ナフサが不足すると塗料、シンナー、米や肥料等の袋、エンジンオイル等の生産に影響し品不足を起こすが、悪影響を受けている企業等の調査、または企業側から、経済振興課やあさご元気産業創生センターへの依頼や相談はあるか。		
2	交通の要衝のまちが逆効果を生んでいないか	(1)	朝来市は JR2路線6駅、高速道路2路線3ランプ3 IC、国道4路線、県道14路線が存在する交通の要衝、特に和田山からは山陰、京阪神、播磨等に行きやすく逆に来やすい。出入りの調査やデータはあるか。		市長
		(2)	買い物、食事等目的の人口が流出していないか。		
		(3)	当市と福知山、氷上、福崎、姫路の商業施設、何が違うか。消費人口が拡大できない原因は何か。		
		(4)	流出を止め、入り込みを増やす対策は何か。		
3	出石糸井県立自然公園、と室尾森林自然公園の整備について	(1)	国の天然記念物「糸井の大カツラ」、「床尾山」は多くの方が訪れるが安全性が確保されていない。対策を講じる考えはないか。落石、土砂崩れ等事故時の責任の所在は何か。		市長 教育長
		(2)	室尾森林自然公園は再整備を前提に一時閉鎖したが、整備計画が検討されていないのではないか。		
4	大河ドラマ「豊臣兄弟」トークライブ IN 朝来について	(1)	申込み者多数の処理方法と結果はどうであったか。		市長 教育長
		(2)	落選者への対応が不十分でないか。		
		(3)	記念入城券等の応募へのお礼は考えなかったか。		

第6回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和8年6月12日

番号	1	質問者	尾崎 里美	タイトル	住みよい朝来市へ
質問事項		質問要旨			答弁を 求める者
1	雇用対策について	<p>(1) 奨励金制度について、これまでの成果は、雇用人数や業種、定着状況等も含めどの様になっているのでしょうか。</p> <p>(2) 若者、子育て中の女性、高齢者、障害者、市内事業所の人材確保支援等について、参加人数やマッチング実績等、どの様な成果が出ているのでしょうか。</p> <p>(3) 専門学校や大学誘致について、検討するお考えはないのでしょうか。</p> <p>(4) 高等教育機関との連携はどの様にされているのでしょうか。</p>			市長
2	医療について	<p>(1) 安心して産み育てられる環境整備をどの様に考えておられるのでしょうか</p> <p>(2) 朝来医療センターに小児科は必要だと思いますが、市の認識はどの様にお考えでしょうか。</p>			市長
3	子育てについて	<p>(1) あさご暮らし住宅取得等応援事業が実施されているが、一定期間の支援が実際の定住の後押しとして有効ではないのでしょうか。</p> <p>(2) 兵庫労働局と連携した取り組みを市としてどの様に進めていかれるのでしょうか。</p> <p>(3) 申請支援や働きやすい環境作りの支援を朝来市としてどの様に促進していくのでしょうか。</p> <p>(4) 産後ケア事業の利用状況と利用のしにくさの要因はどの様に把握しておられるのでしょうか。</p> <p>(5) 朝来市における待機児童の状況及び保育事業の実態をどの様に把握されておられるのでしょうか。</p>			市長 教育長

	<p>(6) 途中入園が難しい事で希望する時期に職場に復帰できない事があると子育てと就労の両立に大きく影響します。市としてどの様に対応しておられるのでしょうか。</p> <p>(7) 親子で安心して利用できる公園等の整備、充実について市の基本的なお考えを伺います。</p> <p>(8) 少人数化が進む中での学校生活上の課題について教育現場としてどの様に認識しているのでしょうか。</p> <p>(9) 学校に行きにくさを感じている子どもへの現在の対応と福祉・家庭支援との連携について、どのようにされていますか。</p>	
--	--	--

第6回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和8年6月12日

番号	2	質問者	加藤 貴之	タイトル	学びと遊びを掛け算しよう
質問事項		質問要旨			答弁を 求める者
1	生野の将来像 について	(1) 市長は朝来市のまちづくりの中で、生野の将来像をどのように描いているか。			市長
2	朝来市自然環境 保全センター について	(1) 市川源流の自然環境の未来に残すべきものは何か。センターの開設によって地域に新たに付け加えたい価値は何か。 (2) センターへ行こうと思うきっかけとなる魅力は何か。センターの訪問客に持ち帰ってもらいたい学びは何か。 (3) 自然学校等で市内に滞在する方を積極的に誘客すべきと考えるがいかがか。			市長 教育長
3	史跡・生野銀 山について	(1) 生野の歴史遺産で未来へ残すべきものは何か。史跡・生野銀山の事業継承によって地域へ新たに付け加えたい価値は何か。 (2) 銀山へ行こうと思うきっかけとなる魅力は何か。銀山の訪問客に持ち帰ってもらいたい学びは何か。 (3) 銀山は朝来市の観光コンセプト「暮らすような旅」を体現する場所となっているか。体験型コンテンツやガイドの充実が必要ではないか。			市長 教育長
4	学校のあり方 について	(1) 朝来市の教育の未来へ継承したい良さは何か。 (2) 市立中学校各校の現在の在校生徒数と、10年後の各校の推定生徒数を問う。 (3) 「朝来市立学校の在り方に関する方針」は作成から5年経ち、一度見直しをした方が良いと考えるがいかがか。 (4) 生野中学校は小規模化が進むことで教育の質が落ちることを私は危惧している。教育長はどう考えるか。			教育長

	<p>学校のあり方を見直す場合どのような選択肢があるのか。</p> <p>(5) 令和10年度に計画されている生野中学校の長寿命化改修にかかる概算事業費とその工事内容を問う。</p>	
<p>5 学びの地域展開へ</p>	<p>自然環境保全センターや史跡・生野銀山は単なる観光施設ではなく、「学び」と「遊び」の両面を持つ地域資源である。これは外部からの観光客に対してだけでなく、地域の子どもたちにとっても重要な教育資源になり得る。</p> <p>そのような地域特性を持つ生野のまちづくりを考える上では、教育と観光を総合的に捉える視点が必要ではないか。</p> <p>私は、生野小中学校を小規模特認校として位置づけ、地域全体を校舎と捉えながら、一人ひとりの好奇心を探究できる小規模教育を行うことも一つの方向性ではないかと考えている。</p> <p>地域の自然環境・歴史遺産を活用した探究学習を行うとともに、児童生徒が施設の展示を作ったり、「こどもガイド」として各施設で観光客と接する機会を設けたりすることで、コミュニケーション能力やシビックプライドを育むことができるだろう。</p> <p>同時に観光客へも、地域の子どもたちとの交流を通じて、単なる消費型ではない「学びのある観光」を提供できる可能性がある。</p> <p>(1) このような「教育」と「観光」を連動させたまちづくりの可能性について、市長及び教育長の見解を伺う。</p>	<p>市長 教育長</p>

第6回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和8年6月12日

番号	3	質問者	関 綾乃	タイトル	住んでよかった朝来市に！
質問事項		質問要旨			答弁を 求める者
1	部活動地域展開について	<p>(1) 部活動の地域展開をめざし、中学生の受入れが可能なスポーツ・文化芸術活動を行っている地域のクラブを募集されている。今以上に種目やクラブ数を増やし、地域間に偏りがないようにするために具体的にどの様に進めていくのか伺う。</p> <p>(2) 地域のクラブへの参加について、自宅や学校から遠方の場合原則として保護者が送迎を行うことを想定されている。これにより、部活動に参加する率が現在より低くなることも考えられる。解決策はどの様に進めていくのか伺う。</p> <p>(3) 従来、部活動は授業終了後から放課後に殆どの場合において学校内で実施されている。部活動の地域展開は社会人が活動の中心となるため、大人が活動する夜間に中学生が参加することも想定される。放課後に参加出来る地域クラブの依頼や創設など、生徒の「放課後時間」を活かす方法はあるのか伺う。</p> <p>(4) 私の中学生時代には週に一度「全校クラブ」という時間があった。全校クラブとは全校生徒がいずれかのクラブに所属し、活動するものである。地域クラブに参加することが難しい生徒も想定されることから朝来市版「全校クラブ」を検討されてはどうか伺う。</p>			市長 教育長
2	朝来市での定住促進を目指して	<p>(1) 人口減少が進む本市では、若者や勤労世代によるUターンや移住を促進させたい。朝来市で育ちながらも進学や就職等で一度は市外に転居したものの、朝来市へ帰ってくる30歳までのふるさと回帰率は、どのような数字になっているのか伺う。</p> <p>(2) 将来、朝来市での定住を目指し、義務教育が終わる生徒や保護者などの学校機関に対してどのようなアピールを行っているのか伺う。</p>			市長 教育長

	<p>(3) 「ふるさと就職奨励金」などの名称で就職祝い金を出す近隣自治体や市内地域自治協議会がある。勤労世代に朝来市への定住を促進するためにも、朝来市に在住し、就労を証明できる人に「朝来市就職お祝い金」を、併せて翌年には「継続お祝い金」の贈呈を検討されてはどうか伺う。</p>	
--	---	--

第6回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和8年6月15日

番号	4	質問者	水田 文夫	タイトル	住み続けたい元気で美しい朝来市	
質問事項		質問要旨				答弁を 求める者
1	朝来の応援団 を大切に	<p>これまで議会で「活動人口」や「ふるさと住民登録制度」について質問してきました。その中で市は、関係人口を「地域づくりの担い手」、活動人口を「持続可能な地域づくりに欠かせない存在」と位置づけられました。私も、その考えは非常に重要だと思っています。</p> <p>これからの時代は、「何人住んでいるか」だけでなく、「どれだけ多くの人朝来市を応援し、関わってくれているか」が重要になると考えています。実際、朝来市には、竹田城跡のファン、ふるさと納税で応援してくださる方、二拠点居住の方、ふるさと青年協力隊のOB・OGなど、「朝来が好き」という方が全国にたくさんおられます。こうした方々とのつながりを一度きりで終わらせるのではなく、「朝来市の応援団」として地域活動にも関わっていただける仕組みづくりが必要ではないかと考えています。地域イベントの案内、農業体験、環境保全活動、ボランティアなど、「関わりたい人」と「地域」をつなぐ仕組みを整えば、朝来市を支えてくれる人の輪は、さらに広がっていくのではないのでしょうか。以下の点について質問します。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 関係人口・活動人口を、今後の地域づくりの中でどのように位置づけていくのか。 (2) 「朝来市を応援したい」という方々と継続的につながるため、ふるさと住民登録制度をどのように活用していこうと考えているのか。 (3) 地域活動やボランティア等、「関わりたい人」と「地域」をつなぐ仕組みづくりを進める考えはあるのか。 (4) 電子登録やLINEなどを活用し、小さな形からでも朝来市版の登録制度を試行する考えはあるのか。 				市長

	(5) ふるさと納税を「寄附だけ」で終わらせず、「来てもらおう」「関わってもらおう」ことへとつなげる、循環型の関係人口政策を進める考えはあるのか。	
2 高齢化社会に対応した公共交通へ	<p>現在の「あさGO」は3区域で運行されていますが、区域を越えて利用できない仕組みとなっています。そのため、高齢者を中心に、①あさご医療センターへ直接行けない、②乗り換えが負担である、③家族の送迎に頼らざるを得ない、といった声を多く伺っています。今後さらに高齢化が進む中、公共交通は「区域を守る交通」から「暮らしを支える交通」へと転換していく必要があると考えます。特に、医療機関へのアクセス確保は、交通政策にとどまらず、医療・福祉政策そのものでもあります。そこで、高齢化社会に対応した公共交通の再設計について、以下の点をお聞きします。</p> <p>(1) 高齢化の進展に伴う移動困難者の増加について、市はどのような課題認識を持っているのか。</p> <p>(2) あさご医療センターなど医療機関へのアクセス確保を、交通政策にとどまらず、医療・福祉政策として位置づける考えはあるのか。</p> <p>(3) 通院目的に限定した越境運行や、曜日・時間帯を限定した試験運行など、柔軟な実証運行を検討できないのか。</p> <p>(4) 区域境への乗継拠点整備など、高齢者が利用しやすい公共交通体系への改善を検討できないのか、今後の免許返納者の増加を見据え、医療・買い物・介護予防など「生活を支える移動」を重視した公共交通体系へ見直していく考えはあるのか。</p>	市長
3 雇用の確保	<p>市内企業の事業縮小・撤退に伴い、地域への影響が続いています。雇用と地域経済の両面から、以下の点をお聞きします。</p> <p>(1) 両社の事業縮小・撤退により影響を受けた従業員数について、市はそれぞれ把握しているのか。</p>	市長

	<p>(2) 市として、ハローワーク・商工会・地元企業と連携し、受け皿づくりや雇用マッチングを行ってきたのですが、離職や配置転換の対象となった方々の市内企業への再就職状況はどうなっているのか。</p> <p>(3) 今後も同様の企業撤退が起きた場合に備え、雇用維持のための企業間連携や支援策をどのように構築していく考えなのか。</p> <p>工場がなくなることよりも、働く人が地域からいなくなるの方が深刻だと考えています。この観点から、さらに以下の点をお聞きします。</p> <p>(4) 企業撤退に伴う社員寮の利用状況の変化について、市は把握しているのか。</p> <p>(5) 寮利用者の減少が、周辺の小売業や飲食業など地域経済に与えている影響について、調査・分析を行っているのか。</p> <p>(6) 撤退による地域消費の減少を補うため、周辺商業者への支援や新たな需要創出策を検討しているのか。</p> <p>(7) 企業誘致においては、工場や事業所の立地だけでなく、「人が住み、地域で消費する」という視点をどのように位置づけているのか。</p> <p>(8) 工場や寮の明かりが消えたことで、街路灯の整備が必要との地域の声が上がっていますが、対応は進んでいるのか、</p>	
--	---	--

第6回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和8年6月15日

番号	5	質問者	吉田 俊平	タイトル	市民最優先の行政を！
質問事項		質問要旨			答弁を 求める者
1	行政区負担の 軽減について	(1)	各行政区では担い手不足や負担の増加に困っている事から負担を軽減するため、行政からの参加依頼、調査依頼、集金依頼、配布依頼、点検依頼、日役依頼など様々な行政と行政区との関係の在り方や負担の在り方を見直すと共に新たな財政支援が必要であると考えるが、市長のご見解を伺います。また、クリーン作戦への協力に対して活動費や軍手など支援が必要ではないか。		市長
2	都市開発について	(1)	朝来医療センター周辺の都市開発は関係行政区との6地区協議会を既に設置し協議を開始していますが、そこで市としての具体的な方向性を示す必要があるのではないか。		市長
3	除雪について	(1)	和田山駅前及び4町は車や人の往来が非常に多い地域であるが、除雪をしていない市道が多く、除雪負担を行政区や個人に担わせている事から、苦情も多く、道路管理者としての改善を求められているのではないか。		市長
4	防犯カメラの 設置について	(1)	昨今はトクリュウ型強盗犯のニュースを見かける事が多く、市内での防犯カメラ設置への要望が多い一方で要望団体につき一か所との制限があり、また県への補助要望も多く、全ての設置要望を満たせていない状況にある事から、市単での補助を強化すべきと考えるがどうか。また交通安全の一環として交通安全対策基金の活用も一つの手段ではないか。		市長
5	消防団について	(1)	過去に実施した総務常任委員会と消防団幹部との一般会議では、消防団員の加入メリットのため「消防団員応援の店」を求める声があった。しかし、店側からすれば行政支援のない現状では実施したくても実施出来ない事から、長野県上田市の様に行政支援の創設が出来ないか。		市長

6 部活動の地域展開について	(1) 朝来市は行政面積が広く、公共交通機関も十分ではない事から、部活動の地域展開を進める上で送迎の課題がある事から、香川県東かがわ市のように小学校のスクールバスの活用を進めるべきと考えるがどうか。	教育長
7 教育基金について	(1) 令和7年度に設置した教育基金を活用し、保護者の負担となっている修学旅行、制服、副教材費への支援が出来ないか。	教育長
8 地域協働事業額について	(1) 各地域自治協議会が独自で行っている広報活動は現在包括支援しかなく個別支援がない事から、地域協働事業額に広報活動を追加し、全住民型の地域自治協議会を目指せないか。	市 長
9 生野図書室について	(1) 現在建設中の生野庁舎内には生野図書分館が設置される予定であるが、開館日は平日のみとの説明があった。開館が平日だけでは勤労者の生涯学習の場としての機能が不十分になってしまう事から、土日の開館を目指すべきと考えるがどうか。	市 長
10 経済対策について	(1) 朝来市の財政規模や公的支出額では経済対策や経済振興が容易でなく、新たな経済対策や経済振興では財源に苦慮していると認識しているが、「経済振興基金」を造成し、新しい取組みや新しい事業の後押しが経済振興のために必要と考えるがどうか。また、事業承継を推進させるため、兵庫県が実施している事業継続支援事業に上乘せ支援が出来ないか。	市 長
11 多文化共生推進基本方針について	(1) 本年度に策定中の多文化共生推進基本方針は前年度に在住外国人へアンケートを実施したとの事であるが、配布数及び回収率はどうなっているか。また、尼崎市でもアンケートを実施されたようであるが、回収率が低く、在住外国人の声を細かく拾うためにヒアリングを実施されたようである。朝来市でもヒアリングを実施すべきと考えるがどうか。	市 長

第6回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和8年6月15日

番号	6	質問者	大垣 加奈子	タイトル	安心して過ごせるこどもの環境
質問事項		質問要旨			答弁を 求める者
1	学校に行きづらさを感じるこども達について	<p>(1) 全国的に小学校低学年の学校に行きづらさを感じているこども達が増えている傾向にあるが朝来市の現状と、遊びから学びへのスムーズな移行に向けたアプローチなどはあるのか。</p> <p>(2) 学校現場ではこども達や保護者よりどのような悩みや相談が増え、相談内容の変化はどうか。</p> <p>(3) 一人一端末によりこども達の心や体調の変化の早期発見に繋がっているのか。</p> <p>(4) 他に行われている心の変化早期発見のための取り組みや対策はあるか。</p> <p>(5) サポートルームの現在の利用状況や課題、現場からの声について。</p> <p>(6) サポートルームで安心して過ごせるよう、どのような配慮を行っているのか。</p> <p>(7) 生野・朝来地区にも選択肢の一つとして小規模なスマイルルームを検討できないか。</p> <p>(8) 家から出る事が難しいこども達の学びの場やコミュニケーションの場に対する対策はあるか。</p> <p>(9) こども達にとって今後必要な支援はなにか。</p>			教育長
2	スクールバスについて	<p>(1) 安全に運行するため、どのような指導や研修を行っているのか、こどもの安全を守るための取り組みはどうか。</p> <p>(2) こども達への声かけや、急変時の対応などのマニュアルや指導などはあるのか。</p>			教育長

	<p>(3) 保護者の不安な声に対しどのような対策をしているか。</p> <p>(4) スクールバス位置情報アプリの導入をご検討頂けないか。</p>	
3 こどもの居場所づくりについて	<p>(1) 小学生を対象とした居場所づくりについてどのように取り組んでいくのか。</p> <p>(2) 中・高校生の居場所づくりについてどのように取り組んでいくのか。</p>	市 長
4 見守りのための防犯カメラについて	<p>(1) 朝来市内には市が管理する防犯カメラが何台設置されているのか。</p> <p>(2) 学校や学校周辺・通学路・こどもの遊び場などの把握されている防犯カメラ設置状況はどうか。</p> <p>(3) 学校に設置されている防犯カメラの位置や撮影範囲は教職員に周知されているか。不審者侵入時の避難訓練や対応訓練の取り組み状況はどうか。</p> <p>(4) 公園や公衆トイレの外など見守るための防犯カメラの拡充についてどうか。</p>	市 長 教育長
5 朝来市公式ラインについて	<p>(1) 熊や猿の出没、不審者などの目撃情報などの情報発信について、市民に対してどのように情報発信されているのか。</p> <p>(2) 公式ラインの活用方針や今後の展開などはどうか。</p>	市 長

第6回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和8年6月15日

番号	7	質問者	松井 道信	タイトル	人口減少と少子化対策について	
質問事項			質問要旨			答弁を 求める者
1	朝来市の人口減少問題について		<p>(1) 第3次朝来市総合計画の改定版における人口指標の捉え方は。2050年予想人口の考え方と有効性について、第3次総合計画概要版にある前期を経た現状の課題中、2050年の推計人口を直近推計より500人も増やし、それが本市の人口目標となっているが、増やしたエビデンスは何か。その時の人口のグラデーションをどのように想定したのか。</p> <p>(2) 全国の多くの自治体が、人口シミュレーションなどを行う際によく使われるものに、コーホート要因法と言うものがあるが、本市に於いてもコーホート要因法は使用しているか。</p> <p>(3) 社人研の出している人口データと朝来市の第3次総合計画での人口指標で出している予測データの相違を市長はどのように捉えているか。</p> <p>(4) 生産年齢人口の減少は単に「現役世代の働く人の数が減る」という問題だけにはとどまらず、深刻な結果を招くこととなる。いまこそ行政は、そのための備えが必要と認識するがその具体策は出来ているか。</p> <p>(5) 本市の人口減少問題に対して、何十年も前から現実から目を背け、適切な措置・対応をとることをせずに長年放置してきたように感じるがどうか。近年の「自然減（少子化・高齢化）」および「社会減（若者の流出）」の推移を市としてどの様に分析しているのか。これまでの施策の効果検証はどのように行っているか。</p> <p>(6) 増田寛也氏の「地方消滅」と人口戦略会議からその続編として「地方消滅2」が発売されているが、この2冊から本市の人口政策には社会減対策が極めて重要であると言っている。この提言に対してどのように捉えるか。</p>		市長	

<p>2 朝来市の少子化政策について</p>	<p>(1) 朝来市の合計特殊出生率は全国平均に比して 0.5 以上も高く、国調の調査でも前回より数値が向上している様であるが、合計特殊出生率数値が向上していることは、喜ばしいことなのか。また朝来市で、合計特殊出生率を 0.1 上げようと思うと、何人の子どもが生まれてくる必要があるのか。</p> <p>(2) 朝来市の人口推移は継続して減少化傾向にあるが、最たる課題は 15 歳から 49 歳の女性の人口の減少である。さらに少子化対策には合計特殊出生率ではなく出生者数にウエイトを置く様認識を改めるべきではないのか。</p> <p>(3) 生まれてくる赤ちゃんの数を増やすには婚姻件数を増やすことが重要だ。朝来市の課題はここにあると考えるがどうか。</p> <p>(4) 婚姻数が伸び悩んでいる大きな原因は、昔以上に結婚に繋がるチャンス・きっかけが少なくなっていることに要因があると考えべきではないか。少子化・未婚化対策の切り札として、昔ながらのお節介な仲人（やりて婆・やりてじい）の現代版システムが再評価されているが、朝来市においても、そうした組織を立ち上げてはどうか。</p>	<p>市長</p>
------------------------	---	-----------

第6回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和8年6月15日

番号	8	質問者	上谷 大介	タイトル	生野地域の将来像について	
質問事項			質問要旨			答弁を 求める者
1	人口減少社会 における生野 地域の維持に ついて	<p>生野地域では人口減少と高齢化が進行し、高齢化率が50%を超える地区も複数存在するなど、地域を支える担い手の確保や日常生活を支える機能の維持が課題となっている。また、生野エリアビジョンにおいても、空き家の増加や商業機能の縮小などが地域課題として整理されている。</p> <p>一方で、生野地域には史跡生野銀山をはじめ、鉱山町として培われてきた歴史や文化、街並み、豊かな自然環境など、他地域にはない価値がある。さらに、朝来市自然環境保全センターの整備や、生野銀山の指定管理者制度への移行など、生野地域は大きな転換期を迎えている。</p> <p>人口増加を前提とした地域づくりが難しい時代を迎える中、生野地域の将来像と「生野らしさ」の継承について、市の考えを伺う。</p> <p>(1) 生野地域における人口減少や高齢化の進行について、市としてどのような危機感を持っているか。また、コミュニティや集落機能の維持についてどのような影響が生じると認識しているか。</p> <p>(2) 空き家の増加や地域活動の担い手不足について、現在どのような課題認識を持っているか。また、それらの課題に対して今後どのように対応していく考えか。</p> <p>(3) 事業者の減少や商業機能の縮小が進む中、買い物をはじめ住民の日常生活を支える機能を今後どのように維持していく考えか。また、それらを将来にわたり維持していくために、行政、地域住民、民間事業者はそれぞれどのような役割を果たしていくべきと考えているか。</p> <p>(4) 生野支所は地域に最も近い行政拠点である。地域課題の把握や地域づくりの支援に加え、今後の生野地域の維持と地域づくりに向けてどのような役</p>	市長			

	割を担っていくべきと考えているか。	
2 生野地域における交流人口の拡大と地域価値の向上について	<p>(1) 朝来市の観光政策において、生野地域をどのように位置付けているか。また、交流人口の拡大が生野地域の将来にどのような効果をもたらすと考えているか。</p> <p>(2) 観光入込客数だけでなく、滞在時間、宿泊、地域内消費、再来訪などの観点から、生野地域における観光の現状をどのように分析しているか。また、交流人口の拡大を地域内消費や宿泊の増加など、生野地域に経済的効果を生み出していく上で、どのような課題があると認識しているか。</p> <p>(3) 生野銀山や日本遺産、鉱山町として培われてきた歴史や文化、街並み、さらには朝来市自然環境保全センターなどの地域資源を活かしながら、今後どのような地域づくりを目指していく考えか。</p>	市長
3 生野銀山を活かした地域づくりについて	<p>(1) 生野銀山を運営してきた事業者の撤退及び指定管理者制度への移行を踏まえ、市は今後の生野銀山をどのように位置付けているか。</p> <p>(2) 生野銀山は生野地域を象徴する歴史資産であるとともに、観光、交流の拠点でもある。市は今後、生野銀山にどのような役割を期待し、生野地域の維持や地域づくりにどのようにつなげていく考えか。</p> <p>(3) 指定管理者制度導入後、市はどのような成果を期待しているのか。また、その成果をどのような指標で評価し、制度導入の効果を検証していく考えか。</p> <p>(4) 来訪者を生野市街地への周遊や滞在、地域内消費の拡大につなげていくために、市は何を重視して取り組んでいく考えか。</p> <p>(5) 生野鉱山の閉山から半世紀を経て、生野地域は今、大きな転換期を迎えている。人口減少や高齢化が進む一方で、生野銀山、日本遺産、鉱山町の歴史や文化、街並み、豊かな自然環境など、生野には他地域にはない唯一無二の価値がある。</p>	市長

	<p>市長は、今後の生野地域をどのような地域として次世代へ引き継いでいきたいと考えているか。</p> <p>また、その実現に向けて、将来にわたり守り育てていくべきと考える生野地域の価値や「生野らしさ」とは何かについて伺います。</p>	
--	---	--

第6回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和8年6月16日

番号	9	質問者	西本 英輔	タイトル	消防団は縁の下の力持ち	
質問事項			質問要旨			答弁を 求める者
1	消防団の負担 軽減について		<p>(1) 本市の消防団員定数は1,050人であるが、令和7年度の消防団員数は832人であり、充足率は約79.2%である。第3次朝来市総合計画にて、「消防団員の確保」が喫緊の課題とされているが、今後、どのような手立てをもって解消に努める考えか。</p> <p>(2) 消防庁では「第5次男女共同参画基本計画」において消防団員に占める女性の割合について10%（本年度末までは当面5%）を目標としている。本市の女性団員の合計と各支団別（本部員分団含む）の所属人数、また本業が公務員以外の割合はどうか。また、女性団員確保に目標値がある場合は、どのような手立てを講じる考えか。</p> <p>(3) 女性団員は男性団員とは異なる視点やアプローチから、地域の防災活動をより効果的にすることが期待されている。本市において各支団に女性隊が組織されているが、どのような活動（有事・平時）をしているか。</p> <p>(4) 女性隊の存在や、その活躍が市民に認知されていないのではないか。消防団員の確保の観点からも、今以上に女性隊を含む消防団のPR活動に注力する必要があると考えるが、どうか。</p> <p>(5) 各地自治体で、機能別団員（分団）制度を採用する動きが見られ、養父市でも採用されている。本市でも導入すれば、既存の消防団活動の負担軽減や補完の他、地域防災のより一層の充実を図ることができると考えるが、制度を採用する考えはないか。</p> <p>(6) 本市の条例には団員の任用に国籍要件はない。外国人は消防団員としてどのくらい任用されているか。</p> <p>(7) 全国的に外国人団員が増加している。外国籍であるため公権力の行使はできないが、外国人住民への防</p>		市長	

災啓発や地域住民との橋渡しや、通訳、翻訳による避難誘導などで活躍しており、外国人団員を中心とした機能別分団を採用している自治体もある。外国人（技能実習生・労働者・観光客）が増加している本市でも、地域と密接な関係にある消防団員として外国人を積極的に任用することは、多文化共生という意味合いを含め大きなメリットがあると考えますが、どうか。

- (8) 火災発生時には各支団下の分団が協力して消火活動にあたる。各分団は管轄内の消火栓や消防水理の場所については把握しているが、他分団の管轄下においては難しく、初動に支障をきたすこともある。支(分)団によっては、スマホなどで確認できるようにしているが、これを全支(分)団に実装してはどうか。
- (9) 火災発災時の時間帯別と平日・休日別の出動人員の平均に違いはあるか。あるのであれば、その要因は何か。
- (10) 現在、発災時の消防団員参集は団員への一斉メール送信によりなされているが、参集メールに気づかない(気づきにくい)ケースもある。また、防災無線での緊急放送も実施されているが、屋外で農作業等をしている場合であれば同じく気づくのが難しい。屋外での緊急放送を実施すれば平日日中の参集率向上に繋がるのではないかと考えるが、どうか。
- (11) 各地自治体にて消防団アプリの導入が進んでいる。上記(8)(10)の一定の解消はもとより、災害時の情報共有や報告業務・事務連絡の効率化など、消防団員の負担軽減が見込めるため、本市でも導入すべきと考えるが、どうか。
- (12) 令和5年度より消防団員の処遇改善として、報酬額の見直しがなされ、直接支給が開始された。また、各分団に対しても分団報奨金が支給されている。過去の同僚議員の一般質問では分団報奨金額について、「平時の活動や操法大会開催時等、支援の在り方について考えたい」との答弁があったが、その後、変更された点はあるか。また、現状の報奨金額で分団運営

	<p>に支障は生じていないか（分団報奨金のみで分団運営はできているか）。</p> <p>(13) 消防団員個人への貸与品の中に合羽はあるものの防寒具はない。支（分）団によっては各自でブルゾンなどを購入し、貸与しているケースもあるが、統一した装備として、消防団員全員に貸与する考えはないか。</p> <p>(14) ポンプ自動車を運転するには2017年以降の普通免許取得者の場合、準中型自動車免許が必要である。本市では消防団員の準中型免許取得に係る経費補助をしており高く評価するが、取得には最短でも7日間程度の教習所への通所が必要である。終業してからや公休、有休日での教習となると負担も大きく、二の足を踏む者もいるのではないか。消防団機能、地域防災の維持という意味合いから、延べ2日程度でも良いので事業所（雇用者）へ補助をすることで勤務中に教習所へ通える制度や、教習所に対しても教習日程について配慮の協力を依頼してはと考えるが、いかがか。</p> <p>(15) 過去の一般質問で消防団協力事業所表示制度の導入について質問し、「他の自治体との状況を参考に、今後も導入に向けた検討をしたい」という答弁であった。どのような検討がなされたか（なされているか）、また導入すべきと考えるが、どうか。</p>	
--	---	--

第6回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和8年6月16日

番号	10	質問者	上田 幸広	タイトル	暮らしやすいまちを目指して
質問事項		質問要旨			答弁を 求める者
1	熱中症対策について	(1) クールスポットについて ①市内クールスポットの利用状況を伺う。 ②高齢者や子供たちへの周知方法について伺う。 ③今後の設置場所の見直しや拡大など行うのか伺う。 (2) 住民税非課税の高齢者世帯にエアコン設置補助を行ってはどうか。 (3) こども園や学校における「暑さ指数」に基づく行事や授業の判断基準や水分補給など熱中症対策を伺う。 (4) こども園や学校におけるミストシャワーや給水器など設置状況について伺う。 (5) ネッククーラーなどの冷却グッズを再冷却するために生徒用冷凍庫を設置できないか伺う。			市長 教育長
2	紙おむつ用ごみ袋支給事業について	(1) 事業開始からの申請数や支給数など実績について伺う。 (2) 利用者の感想などについて伺う。 (3) ごみ袋(大)は重く持ち出すのが困難な方の為にごみ袋(小)も選択可能にすべきではないか。 (4) 今後、子育て支援として子育て世帯へ事業拡大してはどうか。			市長
3	JR 播但線の利用促進と関係人口の拡大について	(1) 播但線団体利用促進補助金制度について ①利用状況について伺う。 ②4人以上の団体で友人仲間、家族親類など会則、規約の無い場合は対象外となる理由について伺う。 (2) 本年3月25日から配布されている播但線駅カードについて市内の駅カードの概要と効果について伺う。			市長

	<p>(3) 駅カードについて積極的に内外にPRすべきと考えるが如何か。</p> <p>(4) カード提示で市内での割引特典を受けられるなど観光誘客や関係人口の拡大のツールとして駅カードを利用してはどうか。</p> <p>(5) 駅カードには発行部数に限度があるため増刷を県に要請すべきと考えるが如何か。</p>	
--	--	--